

# ピオグリタゾン錠15mg/30mg「EE」 を服用される患者様へ

糖尿病のお薬が処方されています。  
危険な低血糖を起こすことがありますので、予防と処置法に  
十分注意してください。この薬を飲んでいることを  
必ず家族やまわりの方にも知らせておいてください。

チェック



ピオグリタゾン錠15mg「EE」



白色～淡黄白色の  
割線入りの裸錠

チェック



ピオグリタゾン錠30mg「EE」



白色～淡黄白色の  
割線入りの裸錠

## 1 低血糖とは？

血液中の糖分が少なくなりすぎた状態で、急に強い異常な空腹感、力のぬけた感じ、発汗、手足のふるえ、眼のちらつき等が起こったり、また頭が痛かったり、ぼんやりしたり、ふらついたり、いつもと人柄の違ったような異常な行動をとることもあります。人によって症状は異なりますが、空腹時に起こり、糖分をとると急に良くなるのが特徴です。

低血糖がひどくなると、けいれんを起こしたり、意識を失うこともあります。



空腹感、  
力のぬけた感じ



発汗



頭が痛い



意識を失う



手足のふるえ

## 2 低血糖症状があらわれたら

1. 低血糖症状は危険な状態ですから、このようなことが起こらないように注意し、軽いうちに治してしまわなければなりません。低血糖になっても軽いうちは糖分をとると治ります。日ごろから袋入りの砂糖(スティックシュガーなど)を3~4個持ち歩き、すぐその場でとることが必要です(10~20g程度が目安)。決してがまんしてはいけません。
2. 本剤のほかに、アカルボース(商品名:グルコバイなど)、ボグリボース(商品名:ベイスンなど)、ミグリトール(商品名:セイブル)のいずれかをいっしょに服用している場合には、砂糖ではなくブドウ糖をとってください。これらのお薬は砂糖の消化や吸収を遅らせますので、ブドウ糖(5~10g)もしくはブドウ糖を含む飲料(150~200mL)をとってください。なお、糖分ゼロ・カロリーゼロの飲料はブドウ糖を含みませんのでご注意ください。
3. 上記の処置をしても低血糖症状の改善が見られないときには、すぐに医療機関を受診してください。
4. 低血糖が起こっていることをご本人が気がつかなかったりすることがありますので、ご家族やまわりの方にも低血糖になった時の対応を頼んでおきましょう。

## 3 低血糖の予防には

糖尿病では勝手にお薬の量や飲み方を変えるような自己流のやり方は危険です。お薬の量や飲み方は、主治医の指導を正しく守ってください。また、食事の時間を極端に変えることや、激しい運動、空腹時の運動は避け、食事療法・運動療法は決められたことをきちんと守りましょう。

ご自分の処方されているお薬の内容をよく理解しておくことも大事です。主治医の先生や薬剤師に確認されることをお勧めします。

この薬の服用により、むくみ(浮腫)や体重の増加がみられ、心臓の働きに影響し、息切れ、動悸などの症状がみられることがあります。とくに心臓の病気のある患者様はご注意ください。

## 1 次のような症状があらわれることがあります。

### ●むくみ(浮腫)

むくみ(浮腫)のために、下腿や足が腫れたり、顔面やまぶたが腫れぼったくなるなどの症状がみられることがあります。



むくみ(浮腫)・  
急激な体重増加

### ●体重増加

体重の増加がみられることがあります。体重はできるだけ毎日測定し、急激な体重の増加に注意してください。

### ●息切れ、動悸

労作時に息が切れたり、動悸がする(心臓がドキドキする)などの症状がみられることがあります。症状が進行すると、安静にしているにもかかわらずこのような症状があらわれることがあります。



息切れ

## 2 むくみ、体重増加、息切れ、動悸などの症状がおこったときの処置

むくみ、急激な体重増加、息切れ、動悸などの症状に気づいた場合には、本薬の服用を中止してください。そして、主治医に連絡をとるなどして、ご相談するようにしてください。

とくにご注意くださいいただきたい患者様

- 心臓の病気(心筋梗塞、狭心症、心筋症、高血圧性心疾患など)を合併している患者様
- インスリンを併用している患者様

この薬が膀胱がんの原因と断定されたわけではありませんが、海外の研究でこの薬が膀胱がんの発症率をわずかにあげるとする報告があります。

- 膀胱がん治療中の方はこの薬を服用しないこととされています。膀胱がんと診断されたことがある場合は、主治医に伝えてください。
- また、膀胱がんの早期発見のため、血尿や頻尿、排尿痛などの症状がみられた場合には、主治医に相談してください。
- くれぐれもご自身の判断で薬をやめないで、心配な方は主治医に相談してください。

### ●血尿

尿が赤くなることがあります(痛みを伴わない場合が多い)。

### ●頻尿

排尿の回数が多くなる場合があります。

### ●排尿痛

急な尿意や排尿時に痛みの症状がみられることがあります。

そのほかに次のような症状があらわれることがあります。

### ●食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる、全身倦怠感

### ●脱力感、筋肉痛、褐色の尿

### ●みぞおちの痛み、吐き気、黒色の便

### ●発熱、咳、息苦しい

**これらの症状に気づいた場合は、主治医にご相談するようにしてください。**



エルメッド エーザイ株式会社



エーザイ株式会社

CODE PIO(1)005

2012年6月作成